

★分科会報告概要（マル付き数字は報告順）

小 学 校 分 科 会

①【模擬授業】感染症との共存 天然痘の流行と聖武天皇の国づくり（小6）

2020年、新型コロナウイルスが世界を変えた。今の小学生たちも歴史上で大きな転換期となるこの時期を生き、大きな影響を受けた。感染症の歴史を学ぶことで、感染症と共存する社会への多角的な考え方を育成したい。グループ活動を中心に授業を展開し、天然痘の流行と前時までに学んだ聖武天皇の国づくりの関係を捉えさせる導入となる授業となっている。本授業では主に、天然痘の概要と世界の関わり方について学ぶ。

②気づきや願いを認識につなげる生活科を目指して

生活科の授業をするたびに、「何が達成されたのか」「活動あって学びなしでは」といった言葉に悩んできた。子どもたちの気づきの質を高めるとは、社会認識や自然認識に結び付けるとは、どういうことなのか、どのような指導や支援がよいのか、1年生の子どもたちとの秋さがしの学習から考えたい。

③ごみ袋「ARIGATOU」に込められた思い（小4）

小学校4年生の社会科「ごみとすみよいくらし」において、千葉市の市教研で研究授業を行いました。千葉市の有料指定ごみ袋に「ARIGATOU」と記載されているのはなぜか、子どもと考えました。ごみの処理に関して、自分の考えが深まったり広がったりすることをねらい、たくさん関係する人と出会うことで学びの深まりを目指しました。

④家族を扱ったアジア太平洋戦争の授業（小6）

小学校6年生の歴史学習の実践です。「長く続いた戦争と人々のくらし」の単元で、実践者の家族を扱った授業について報告します。勤務地である蘇我の地域の空襲被害から授業を始め、ビルマでの泰緬鉄道敷設に従事した祖父、千葉市空襲を経験した祖母、シベリア抑留者である祖父を授業で扱いました。子どもたちがこれらの事実からアジア太平洋戦争をどのように考え、表現していったか報告します。

⑤在日朝鮮学校の美術教育「学美展」についての一考察

昨年の全国大会で発表した千葉ウリハッキョにおける日朝教育研究会の授業交流についての実践の中で触れることができなかった美術教育についての内容である。

筆者自身が小学校教員時代、子どもの表現力の育成を主なテーマに研究をしてきたので、ウリハッキョの美術教育の発表の核となる展覧会「学美展」を観てどのような刺激を受けたのか、またその後どのように関わることができたのかを考察してみた。

中 学 校 分 科 会

①【模擬授業】中学歴史「朝鮮人参政権」を考える—日本の植民地支配と朝鮮人—

②【模擬授業】中学歴史 曾根崎心中にみる元禄文化

本時は中学校2年生社会科歴史的分野を想定した、「元禄文化」についての授業である。近松門左衛門の『曾根崎心中』を中心の教材とし、『曾根崎心中』が当時の上方町人の中でヒットした背景を考えることで、元禄文化の特徴全体を捉える。江戸時代の身分制と町人の関係や上方の地域性、儒教的価値観の理解等を通して、心中という行為が持つ為政者と町人それぞれの立場からの意味、そして町人に広まる社会的不満に触れることで、元禄文化に通底する特徴を生徒に考えさせたい。

③東アジアの緊張と律令国家への歩み

④公共の福祉と個人の権利の対立

⑤白鳥晃司実践（袴田事件）から学生はなにを学んだか

k 大学で「社会科・地歴科教育論」を担当している。学生の社会科教育観（教師の一方的な教え込みと生徒の暗記学習）の刷新を目指して、先輩教師たちの意欲的で先進的な児童・生徒主体の授業実践を学ばせている。具体的には、予習として各自に授業実践の読み取り（分析と評価）を行わせ、授業では予習内容を基にした討議による学び合いを実施している。今回は、袴田事件をテーマとした白鳥晃司実践を取り上げた回の授業を報告する。

⑥関東大震災と虐殺 地元資料をどう受け止めるか

震災後の虐殺という地元市民の加害体験を、子どもたちが受け止めることの難しさを再認識し、今後どう授業を組み立てたらよいかを皆さんと考えたいです。

日本分科会（分散会 A・B、最初の1報告は合同）

①【模擬授業】歴史総合「みんなならどうする！？－黒船来航と日本の開国－」

本レポートにおいて、まず、①アメリカは日本に何を求めて進出してきたか、②開国による日本側のメリット・デメリット、③開国が日本にもたらした影響について理解させる。また、日本が開国していなかったら、その先の日本はどのようになっていたかについて創造し、新たな歴史認識を持たせる。まとめとして、「日本は開国をするべきだったか？」という問いを投げかけ、生徒に当事者意識を持って、開国に対する考えを持たせる。

A②法然の専修念仏は民衆に支持されたのか

「鎌倉仏教」はどう教えられているだろう。高校日本史においては、受験の圧力もあり祖師や教義の内容を整理するだけの授業が蔓延っている。それでは鎌倉仏教の歴史的な意味を捉えることはできない。本実践では、法然の専修念仏と、当該期の信仰世界を具現化した板碑を教材に、その対比を通して、中世民衆の心情や観念、行動原理を考えさせた。本実践を素材にして、文化史を通史のなかに位置づける意義についても議論を深めたい。

A③キリスト教と南蛮貿易

桃山文化では国際的な交流が行われた。特に今までの歴史にはなかった要素が、ヨーロッパ人（南蛮人）との接触によってもたらされた南蛮文化である。きらびやかな南蛮屏風を見ながら南蛮人とのとりひき（南蛮貿易）について認識を深めていきたい。あわせて、キリスト教の伝来もここでは文化の新しい1ページを加えている。南蛮屏風に描かれている宣教師たちと南蛮貿易の商人たちのやりとりの様子に注目させて、両者の関係を考察したい。

A④東アジアの中の江華島事件

近代の日朝関係の出発点となった江華島事件について、東アジアの国際関係を踏まえて考察する。従来の日本史の枠組みでの日本側からの視点に加え、朝鮮や清からの視点から考えることで、東アジアの国際関係の中に位置づけて、その歴史的意味を総合的に検討したい。その上で、あるべき授業案を、「歴史総合」の授業として提示したい。

A⑤日中戦争と高等女学校生徒～学友雑誌から～

日中戦争開戦の年、千葉高等女学校では全校職員の意気発揚を目的に「国民精神総動員特別号」と題される学友雑誌が発刊された。そこに掲載された当時の女学生の書いた文章を読み、空襲や食料不足が深刻化する以前の高等女学校で、行われていたことについての認識を深めた。どのようにして「銃後」が形成されたのか、その過程で学校の果たした役割は何だったのか追求した歴史総合の授業について報告する。

B② 棚畑の人たちはなぜ「縄文のビーナス」を作ったのか

土偶「縄文のビーナス」を作った長野県茅野市の「棚畑の人々は、なぜこの土偶を作ったのか」について、高校二年生の選択の授業で考えを深めた。「変だなあ探し」、土偶の命名を経て、「女神土偶」と名付けられた土偶は、豊作等を求めて作られた女神なのか、それとも娯楽目的で作られた女神なのか（娯楽説）、討論となり、こうした土偶を作れる棚畑の社会は平等な社会だったのか、最終的に議論となった授業を報告したい。

B③ 「三韓征伐」から日朝修好条規を考える

高校2年生「日本史探究」でおこなった実践である。明治初期の日本と朝鮮との関係を、国交断絶問題から征韓論争、「日朝修好条規」の締結までを生徒と考えた。とりわけ「日朝修好条規」の内容とその締結を考える際、古代から続く神功皇后の「三韓征伐」言説が、当時の「日本人」にどのような朝鮮認識をもたらしていたのかを踏まえて生徒は考察を行った。古代史が近現代で「利用」されたことに生徒は気づいたようである。

B④ 地域の記念碑を活用した日清戦争の授業の開発と評価

～あなたは日清戦争の歴史をどのように語り継ぐべきだと考えますか～

戦争の記憶をめぐる問題は、現代社会における重要な課題となっています。特に地域社会に残る戦争記念碑は、過去の戦争をどのように記憶し、語り継ぐべきかという問いを私たちに投げかけています。本実践では、地域に残る日清戦争の記念碑を題材として、記念碑に込められた地域社会の「語り」、日本国家や他国における「語り」を比較検討することで、生徒が日清戦争という歴史的事象を多角的に考察し、自らの歴史認識を形成していく授業の開発を試みました。

B⑤ 小説『こころ』を通して明治時代を読み解く

小説を読むと、その小説の舞台となる時代を大まかにではあるがイメージすることができる。そこで、国語の定番教材である夏目漱石の「こころ」を通して歴史の授業で明治という時代に迫れたら面白いのではないかと考えた。国語の授業の中で生徒たちが感じていた疑問（当時の結婚観や法整備、家族と個人主義、前近代的思考から近代的価値観への過渡期など）をベースに授業を組み立てたので、「近代化への問いを表現する」ことにつなげることができた部分もある。

世界分科会

①【模擬授業】歴史総合「産業革命」について

「産業革命」によってイギリス社会はどのように変わっていったのかを風刺画やその当時に存在した職業をもとに考えることで、産業革命がもたらした利点と問題について考える

②「どうしてヒトラーに投票したの？」にどう答えるか

高校3年生の日本史探究での授業開きでおこなった実践で、主に使用した教材は『父さんはどうしてヒトラーに投票したの?』という絵本である。絵本の中の「ぼく」は、ヒトラーが政権についた1933年当時5才、楽器店を営む父と母、母のお腹の中にいる妹の4人家族である。ラストシーンでは、戦地から帰還した父に対して、「ねえ、父さん、父さんはどうしてヒトラーに投票したの?」と「ぼくが父に尋ねる。果たして生徒たちは何と答えたのだろうか。

③「ランボー」とベトナム帰還兵の苦悩

映画「ランボー」の『俺にとって戦争は続いたままなんだ!』というセリフの意味を考えます。ベトナム戦争に従軍した兵士が、戦場で抱えた苦悩と帰還してからの苦悩に生徒が寄り添えるような授業を目指します。主にベトナム帰還兵に焦点をあてて考えますが、アジア太平洋戦争における戦争とトラウマについても検討します。

④現代社会の問題を意識した歴史総合の授業

歴史総合では中項目B「近代化と私たち」の(4)「近代化と現代的な諸課題」では近代化現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解することになっています。そこで今回は列強の帝国主義政策を正当化した「レイシズム」を取り上げました。レイシズムの起源からそしてヘイトスピーチやヘイトクライムなど現代のレイシズムまで、レイシズムをなくすにはどうすればよいか生徒と粘り強く学習しました。

⑤歴史総合 日本の高校生と学んだ崔承喜の授業

1911年に朝鮮で生まれた崔承喜は、石井漠という近代舞踊の大家と出会い、創作舞踊家としての人生を歩むこととなる。日本や世界で「舞姫」としての名声を得つつも、植民地人としての境遇から離れることはできなかった。朝鮮への思いを秘めつつ、「親日」行為をくぐり抜ける中で、独特の舞踊を創造していった。その過程で彼女が何を感じ、何を考えていたかを日本の高校生徒とともに追求した。

⑥海の向こうの「ヒロシマ」から考える被爆者の願い

日本の絵本『やくそくのどんぐり』に描かれた韓国人被爆者の体験談をもとに、韓国の陝川が「韓国のヒロシマ」と呼ばれるようになった歴史的背景を探究し、韓国人被爆者とそれに寄り添う日本人の願いを汲み取った。そして、韓国の絵本『ハラボジとすごしたハル』と比較するなかで、日本と韓国の被爆者の願い、日本と韓国の絵本作家の伝え手としての願いを汲み取り、被爆者への思いや平和への意志を具体化させた授業実践報告である。

地 域 分 科 会

①在郷軍人会分会一創立から福田村事件まで

日露戦争、朝鮮植民地戦争を体験した兵士たちは、在郷軍人会に組織された。東葛北部の分会はどんな活動をして、どのように戦争体験を伝え、村のひとびとの意識にどのような影響を及ぼしたのか。尼港事件、間島での戦いで戦死した将兵の葬儀は、福田村事件にどう影響したのか。

②利根川第三期改修工事（1909年～1930年）と福田村事件

石井雍大氏のレポート「野田事件の現地（福田村三ツ堀）訪ねて」（1999年）では流山の水辺公園付近で「大人と子供の遺体が流れついたところ」（証言あり）である」と記録されている。この訪問に同行した千葉県側の行政などの関係者による遺体調査は継続されていない。今回のレポートでは千葉県側で継続しなかった理由と事件後の「遺体の行方」を探る。

③福田村事件を伝える

私たち柏南高校放送部は今回福田村事件について学習しました。7月に初めて事件を知り、現地へは鳥塚先生による説明の元赴き、多くの方のご協力で学びを深め、秋に行われた放送部の大会で音声作品を作り発表しました。活動報告や作品を聞いていただきつつ、皆様は高校生が福田村事件を伝えることについてどう思うか、情報を伝える時に気を付けていることなどをこちらからお聞きして、勉強させていただけたらと思っております。

④旧水戸街道の関東大震災時の「朝鮮人虐殺事件」

千葉県では、旧水戸街道沿い（東葛飾地方）で「事件」が多数起っていた。また、「事件」寸前に、止めた人物もいたのも事実である。その現場に立とうと退職教職員の会や超党派の市議員等を案内する見学会を企画した。地震による被災民を助けるはずの場で、悲惨な「事件」を起こした自警団（在郷軍人会・青年団等による）の動きとその歴史的背景を追いかけた。その実像に迫ろうとする中で、国家と民衆の責任について考えてみた。

⑤忘れ去られた戦跡 陸軍船橋送信所

千葉県船橋市にある無線基地、そう聞いて思い浮かべるのは行田にある海軍船橋送信所だろう。しかし、船橋にはもう一つ無線基地がある。それが「陸軍中央無線電信所船橋送信所」である。ほとんど記録にも残っておらず、地域住民も知らず、誰も調べていない、そんな戦争遺跡である。今回はその「陸軍中央無線電信所船橋送信所」について、航空写真や現地調査、親組織である陸軍中央無線電信所の歴史から、その道筋を辿っていきたい。

⑥安房地域の史料からみる図書館

安房地域の様々な史料を通し、図書館の歴史や文化活動について調査を行なった。特に鴨川の医師・原進一は、戦後に鴨川町立図書館長を4年間務めており、近年、遺族から入手した直筆ノート等には詳細の活動が記されている。東京大学医学部卒業の原は、広いネットワークをもつ文化人で、彫刻家の長谷川昂や作家の近藤啓太郎などとも交流があった。1949年に県立長狭高校で開催された「学校図書館講習協議会」のメモ等も紹介したい。

⑦近世の修験者の活動ー白井市の2人の山伏を通してー

修験道を実践する宗教者を、修験者または山伏という。中世の修験者は、諸国の霊山を廻国する遊行性を持った宗教者であった。しかし近世は、幕府の政策に寄り村に定住し、地域社会の宗教活動を第一義とする、庶民に密着した「里修験」となった。里修験が、村に於いてどのような宗教活動をしたかを発表したい。モデルとして、現在の白井市にいた修験者の教団名「本山派」と「当山派」の2人の山伏を通して、具体的に発表したい。

平和と民主主義分科会

① 学校教育における援助要請行動の検討

不登校児童が増加する要因の一つとして、学校の現場において児童が SOS を発することが困難なことが挙げられる。心理学では自己が直面する種々のトラブルにおいて、他者とそれを共有し、協力等を仰ぐことを援助要請行動という。援助要請行動を取るためには SOC（首尾一貫感覚）の向上が必要であると考えられるが、本報告ではそれが阻害される教室環境や、授業のあり方について検討する。

② 建立 400 年のハングル「四面石塔」の謎をさぐる

館山市の浄土宗大巖院にある「四面石塔」は、和風漢字・中国篆字・印度梵字・朝鮮ハングル旧字体で「南無阿弥陀仏」と刻まれ、1624（元和 10）年に建立された。秀吉の朝鮮侵略から三十三回忌にあたり、被虜人送還の年であることから、平和祈願の供養塔と推察される。建立 400 年の今年は調査研究を深め、11 月に記念シンポジウムを開催した。30 年前の愛沢伸雄実践を振り返るとともに、調査報告と日韓交流の歩みを紹介したい。

③ 中学校新教科書の内容と採択の課題

2024 年 3 月、2025 年度から使用される中学校教科書の文科省検定が公表され、展示会を経て、7～8 月に採択が行われた。一番の驚きは令和書籍から発行された「国史」が検定合格したことだ。戦前を思わせる内容の教科書が子ども手に渡って良いのだろうか？

また、千葉県の 55 自治体中、採択会議の公開をしているのは 8 自治体にすぎない。他は密室での採択同然と思われる。より良い教科書を子ども達に渡すための交流を行いたい。

④ 東京大空襲の体験談を活用した小学校教育の可能性

本報告は大学の授業の中で、初等科教育専攻の学生を中心に行なった授業実践の記録である。授業の大まかな展開は、学生がアジア・太平洋戦争を学び、東京大空襲の体験者からインタビューした上で、その体験談を活かして、小学生を対象にした社会科の模擬授業を行うという流れである。学生が空襲体験者の体験談から何を学び、それを小学生にどのように伝える（伝えたい）のかという一連の行為から記憶と継承について考えたい。

⑤ 2024 年総選挙をきっかけに社会問題に近づく

2024 年衆議院選挙をきっかけにして大学生が社会問題に対しての認識を深めていく社会科教育法の授業。政治にはあまり関心のなかった学生が新聞の記事や記者の講演などから、各政党の政策分析を通じ、政治改革、経済格差、貧困、労働、財政、安保、社会保障、教育について考えていく。

⑥ 「世界の今を歴史から読み解く」市民学習会 千葉県 AALA

ミャンマーの軍事クデター、ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルのジェノサイドなど今世界で起きていることを考える時、なぜ起きたのか、その歴史的背景を知ることなしには理解することができない。これまで学者、研究者などを講師に市民学習会を行ってきたが、それらを紹介しつつ、学びのなかでの市民の声を伝えたい。また、これらから生まれた活動についても紹介したい。